

講義名	オ)神戸の景観と歴史			
担当教員	藤原 喜美子			
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

この講義では、本学が位置する神戸を対象に、「街の景観と歴史」を主題として紹介する。江戸時代の幕末の開港をはるかにさかのぼる大輪田泊や兵庫の津、開港後の国際的な港湾都市としての役割、近代都市へ移行する神戸の歩みを取り上げたい。そして、私たちが日常的に接している神戸の風景の中に、堆積された歴史を考える視座を提供していきたい。

到達目標

講義の内容を理解した上で、自らが考える「神戸像（神戸の魅力）」について、自分の言葉で他人の人に話せるようになる。

提出課題

1. 講義では、毎回、感想文や授業の確認内容などを記入し、小レポートとして提出してもらう。感想文のテーマは、授業ごとに伝える。
2. 小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、レポートの提出を求める。レポート課題の詳細は、別途、5月に、講義中の説明ならびにRYUKA portalの掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の講義で書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などにおいて、神戸に関わる事例として紹介する。

評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文や授業の確認内容を記した15分の小レポート、60点）、レポート（40点）を総合して行う。
評価の基準は、第1回目の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・一言他

都市の発展を知ることを通じて、日常的に接している神戸を愛護し、受講者各自が新しい神戸像を獲得してほしい。そのためには、講義を聴くだけでなく、神戸に関する新聞記事や図書館・書店の土コーナーにある関連文庫にも積極的に目を通してほしい。また、講義で取り上げた神戸市内各所について、今後、また時間を改めて、見学ができるようになった時に、フィールドワークしてほしいと思う。
予習として各自が調べた内容や大事だと思う箇所はメモをとること、講義中に私語をして、他の人の受講の妨げにならないように注意すること。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

<プリント資料>
各時間、プリント資料を配布する。
プリント資料は無くなさいように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜紹介する。

授業計画

この講義は、「対面授業」と「オンデマンド授業」を並行して開講する。授業の進め方や評価方法の詳細は、前期の第1回目の授業で説明する。

1. 神戸と景観
神戸の景観をどのように捉えるか
2. 瀬と高屋敷
3. 六甲山の利用
4. 神戸開港と居留地
5. 北野と町並み
6. 神戸と浄水場
7. 兵庫港と兵庫運河
8. 兵庫津と須磨浦
9. 兵庫津と西園街港
10. 兵庫と平清盛
11. 長田の町並み
12. 芝井畑と悟印
13. 垂水と海
14. 海と悟印
15. まとめ
あなたが考える神戸像（神戸の魅力）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。
復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

教養一般科目は、各学部学科の専門分野とは領域の異なる多様な科目を配置することで、広く、ときに深い教養を身につけて総合的な判断力や応用力を養うための科目群である。この科目では、神戸の魅力を考え、自らが描く「神戸像」について、自分の言葉で他人の人に話す力をつける。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、板書・プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護課業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。

備考

《受講生へのメッセージ》
この授業は、「対面授業」と「オンデマンド授業」を並行して開講する。授業の進め方の詳細は、前期の第1回目の授業で説明する。
教室では座席の間隔をあげ、教室の換気や手の消毒を助行し、感染症拡大の防止に努める。できるかぎり、教室で会うことができるように願っている。
対面授業の受講者が、万が一、一時的に通学困難になった場合は、「対面授業の中での対応（オンデマンド授業へ移動しない）」とさせていただきます。この時、授業の資料の配付や課題等の連絡は、個別にメール